

No	打ち合わせ日付	No	回答希望内容	詳細・補足	回答希望日	回答部門	回答日付	No	途中経過回答内容
1	2015/10/17		人口、排出量の予測値をまとめたベースデータを提示して説明をお願いします。	平成27年10月の協議会P21片山氏の発言で、裏づけ資料がもっと厚いものがあるんです。これはその結果だけをアウトプットしていますけれども、どれをどのように計算したかという部分がありますので、それは次回でお示ししたいと思います。	2016/7/9	組合			1月31日の協議会で、「3市の廃棄物排出量の実績と予測(修正版)」をもとに、説明をしています。なお、ベースデータについては、協議会から求められたものではないので、個人的に必要な場合は別途お渡しいたします。
2	2016/6/11		小平市が昨年(平成27年)に実施した、2度目の組成分析		2016/7/9	小平市			7月9日の協議会で提示済みです。
3	2016/6/11		環境省が作成した「平成24年度版、ごみ処理実態調査」の資料を配布をお願いします。同時に平成25年、平成26年度版の「ごみ処理実態調	プロジェクターを使って説明する時は、紙の資料を各委員に配布して下さい。スクリーンから離れた委員は確認が難しい。今回、平成24年度の資料を使って説明をされたが、単年度の資料だけで予測数値に近いとの説明に疑問を感じます。	2016/7/9	組合			「資源化量の内訳」の部分のみ抽出して配付いたします。
4	2016/6/11		環境省が作成した「ごみ処理実態調査」と公益財団法人東京市町村自治調査会が作成した「ごみ処理実態調査」の違いを説明して下さい。(添付資料-山崎①)	容器プラの排出量が異なっています。今回、説明された資料のうち、4市(青梅市、小金井市、国分寺市、清瀬市)が東京市町村自治調査会が作成した「ごみ処理実態調査」の数値より多くなっている。本来は同値か少ない数値となる?	2016/7/9	組合			国の調査は、集団回収による資源化量等が含まれていますが、自治調査会の調査は集団回収は別に集計している等の違いがあります。組合が説明に使用した数値は国の一般廃棄物処理実態調査の「資源化量の内訳」の資源化量(直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収)のうちの「容器包装プラスチック」の数値です。また、自治調査会の「多摩地域ごみ実態調査」の中で、組合が説明に使用した資源化量に対応する数値としては、表23「資源ごみからの資源化量の品目別内訳」+表26「収集後資源化量の品目別内訳」+表29「集団回収量の品目別内訳」となると思われます。なお、組合では、調査結果のみを使用してご説明しておりますので、詳細な内容については、各自治体にご確認ください。
5	2016/6/11		環境省が作成した「ごみ処理実態調査」で示された国分寺市の数値が、国分寺市発行の市報に記載されている数値と違っている。何が原因か教えて欲しい。(添付資料-山崎②)	行政が配布や広報した市報は大きな間違いは無いのでは?との認識を持っていますが、正直、よくわかりません。仮に市報の数値が正しいとすると、説明の中で示された数値(31.14g)が少なくなります。	2016/7/9	組合			国分寺市にご確認ください。なお、説明で使用した国の一般廃棄物処理実態調査及び容器包装リサイクル協会での容リプラの26年度の資源化実績は、ともに2,238t(容リ協会は2,237.670t)となっております。容リ協会の実績量については、容リ協会のホームページで確認できます。
6	2016/6/11		小平市の組成分析調査結果についての回答資料、【確認事項と感想】9で平成26年度実績での予測では約1500t/年との回答ですが、平成31年以降の可燃、不燃からの移行量がそれぞれ何t見込まれるのか教えて下さい。ごみ量予測(最終版)には、ここで、小平市については可燃ごみと不燃ごみに含まれる容リプラの潜在量を想定し、平成31年以降は可燃ごみ、不燃ごみからの移行量を見込みます。と書かれています。	平成31年以降の可燃物、不燃物から容器プラに移行する量を知りたい。片山氏との面談で自分が作成した資料の間違いを指摘されました。皆様に配布しました資料の5枚目裏の表一番下に記載している焼却量資源化率の元データが、容器プラに移行した後の数値なのに、その数値から更に燃やしているプラの50%を引いていました。従いまして焼却量資源化率は表の数値より少なくなります。申し訳ありませんでした。	2016/7/9				平成31年度以降の容リプラの予測値については、平成26年度までの実績値から潜在量及び移行量を予測し、平成31年度以降の容リプラの全体量を推計していますので、平成31年度の移行量のみは行っていません。
7	2016/6/11		現在、小平市が燃やしているプラを、小平市のリサイクルセンターで処理できないのか?能力的に難しいのであれば、他の方法を検討してはどうか。	小平市が燃やしているプラ量は予測するのは難しいと感じる。小平市の不燃物排出量が他の2市に比べ、異常と思われる排出量となっており、資源化にまわる可能性がある。東大和市の容器プラ排出量は不燃物排出量より多くなっている(平成27年度実績)東大和市、武蔵村山市の容器プラ一人当たり排出量に比べ、小平市の一人当たり排出量は多くなっている。実施計画の予測値に対して、増減のどちらにも振れる可能性があり、予測値が妥当かどうかの判断が難しい。4団体で知恵を出し合い、実際に資源化される量なるべく正確に出す必要があると考えます。	2016/7/9	小平市			6月11日協議会の回答したとおりです。ペットボトルと容リプラ(硬質)を同じラインで処理しているため、この量はすでに限界を超えている状況です。また、軟質系の容器包装プラスチックの処理については、(仮称)3市共同資源物処理施設での処理を前提に事業を進めていますので、他の方法を検討することは考えておりません。